ニュースは必ず原告に渡して下さい
２０１８年０６月２６日　１７８号
生活保護制度を良くする会
ニュース
事務局　道生連
電話　011-736-1722
ファックス　011-736-1688
メール　seihoyokusurukai@herb.ocn.ne.jp

「新・人間裁判」の第１５回口頭弁論・地裁前集会での決意表明を紹介します。

札幌市北区に住んでいる小山和弘です。昭和３７年に札幌で生まれ、母と祖母と３人で暮らしていました。母は、女手一つで私を育ててくれました。けっして裕福な暮らしではありませんでしたが高校卒業まで育ててくれた事に感謝しています。

南区の東海第四高校を卒業したのが昭和５６年。高校卒業後は、すぐに佐川急便に就職をして、トラックの運転手の職に就きました。私が社会に出てからはバブルで景気が良く、給料は毎月３０万円以上ありました。ずっと同じ会社に務めていたのではなく、運転手仲間と情報交換をしながら条件の良い会社があれば会社を変えて仕事をする、そういう生活をしていました。ずっとトラック運転手の仕事をしていましたが４７才の頃、持病のヘルニアが悪化してしまい、仕事に行けない状態になって当時の職場を退職しました。収入が無くなったので住んでいたアパートの家賃を滞納してしまい、強制退去の通知が届き途方にくれていたときに友人から守る会を紹介してもらいました。守る会で新しいアパートを紹介してもらい、入居してすぐに生活保護を申請して受けることができました。この頃私は「とりあえず今は生活保護を受けながら体を治して、働けるようになったらまたトラックに乗りたい」と思っていました。しかし、病院に行くと「頚椎症」「黄色靭帯骨化症」「突発性狭心症」と次々に病気が発覚し、４８歳の時に手術をしました。それでも、仕事をしたい気持ちは変わらずマメにアルバイト情報誌を見て仕事に復帰できないか考えていましたが、年齢制限が４０歳までとか４５歳までというのが多く、４８歳の自分には厳しい現実でした。体調も若い頃と違って回復するのも遅いし、昔のように運転手としてすぐに自立をするのは無理ではないか、そう考えていた時に知り合いから声がかかり、「月に２・３回でもいいから中古車販売店の納車や書類の手続きを手伝ってくれないか」と誘われて、現在のアルバイトをはじめました。今も整形外科や脳神経外科などに通院していて、寒くなると左手がしびれてしまいます。重いものは全く持てなくなりました。この状態で運転手の仕事に復帰するのは難しいと思いますので、今できる仕事としてこのアルバイトを続けています。

そう割り切っていても、「今の生活に満足しているか？」と聞かれると返答に困ってしまいます。生活保護費とアルバイト代の収入しかないので昔のように自由に使えるお金はほとんどありません。少しの贅沢をしたい、人として当たり前の生活を送りたい。そう頭をよぎることもたまにあります。発泡酒を飲みながら「たまにはビールが飲みたい」と考えたりもします。

2013 年から生活保護基準が引き下げられ、金額にしたら月に 1000 円ほどの引き下げでした。「たかが 1000 円」と思われるかもしれません。基準が戻ったとしても、憲法 25 条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」を送れるかというと、私はとてもそう思いません。昔より消費税は上がっているし、光熱費や食料品の値上げなどが私達の暮らしを直撃しています。そうした中で、なぜ生活保護費が「下がる」のでしょうか。生活するためのお金が高くなっているのだから、生活保護費も「上がる」のが当然ではないでしょうか？

守る会の会員として、新・人間裁判の傍聴をして原告の人たちの話を聞いて私も原告になって闘いたい、そう思い第２次提訴に参加しました。わからないこともいっぱいありますが、生活保護を利用している人間として声をあげなければならないと思います。みんなで一緒に頑張りましょう！

ニュースは必ず原告に渡して下さい
２０１８年０６月２６日　１７９号
生活保護制度を良くする会
ニュース
事務局　道生連
電話　011-736-1722
ファックス　011-736-1688
メール　seihoyokusurukai@herb.ocn.ne.jp

「新・人間裁判」の第１５回口頭弁論・地裁前集会での決意表明を紹介します。

吉田伸と言います。私は１９７７年生まれ、Ｂ－の知的障害者で、４０歳です。名寄市で生まれました。

寿司屋をやっていた両親と２歳年上の兄と４人家族でした。

私が３～４才の頃、父が蒸発してしまい、母は子供２人と、母の姉を頼り、札幌市に転居しました。細かい事はわかりませんが、生活保護を受けていたようです。

私は小学校入学前、屋根から落ちて頭を打ったことが原因でてんかんと診断され、言葉の発達が遅れていました。小学校は普通学級で勉強していました。

中学校２年の頃には、学力不足と将来の就職の事を考えて、学校の先生と相談の上、特殊学級に編入してもらいました。高校は白樺高等養護学校に進学しました。

高校卒業後、家具店に就職しましたが、１年ほどで倒産、鉄骨会社に就職しました。

兄は、出稼ぎに行き、母と二人ぐらしでした。しかし、平成１０年に母が肺がんで亡くなり、ひとりになったので、二年間、通勤寮から仕事先に通いました。

兄が結婚をしたので私はアパートを借りてひとり暮らしを始めました。

平成９年から受けていた障害年金の通帳は兄が持っており、自分には入らず、平成１８年ごろ生活が苦しくなり、豊平区役所に保護を受けられないかと相談に行きました。ケースワーカーさんは若いから本州に働きに行ったらどうかと、派遣会社を紹介されました。名古屋でペンキ製造会社の寮に、派遣労働者として入りました。

事前の説明では、２年間働けば社員になれるというので、私はまじめに働きました。しかし、１年で派遣切りになりました。名古屋には知り合いもなく、派遣元も次の派遣先を決めてくれないので、私は札幌に戻りました。

最初は友人を頼り、仕事をさがしましたが見つかりませんでした。友人のお母さんの紹介で支援する会と出会い、グループホームで生活するようになりました。障害年金や雇用保険の手続きなどを教えてもらい、それらをもらいながら仕事を探しました。しかし、仕事を見つける事ができず、平成２０年５月から生活保護を利用しています。

私は現在、グループホームを出て一人暮らしをしています。私は障害年金６５，０００円を受給し、共同作業所で働いて作業工賃１万円をもらい、足りない分を保護費４５，０００円、合計１２万円で生活しています。

私は今回の三回の引き下げで６，２４０円保護費が減らされました。

お酒は飲まず煙草もほとんど吸わない私ですが、引き下げ後はこまめにストーブを消して灯油代の節約をしています。食費も、見切り品や半額になる時間帯に行き、節約に努めています。楽しみにしていた月１回の映画も、今はほとんど行きません。さらに、仕事さがしや気分転換のために街にでかける事をひかえて、交通費を節約しています。

今は金銭的な余裕がなくなり、精神的にもきびしいです。自立をするなと言われているようで、将来を考えるととても不安です。生活保護費がまた、減らされようとしています。保護費を引き下げるのではなく、元にもどすよう、訴えています。ぜひ応援して下さい。